

初めて方正県を旅して

松木 千明

今回方正県を旅することになったのは、祖父が行くので中国に対する興味もあり、一緒について行くことにしました。

方正県は、ハルピン市からバスで2時間程の所にあります。バスからは見渡す限りトウモロコシ畑が広がり、道路の脇には道が続く限りコスモスがきれいに咲き並んでいました。中国の広さを実感することができました。

私が今まで訪れた国は、フランス（パリ）・イギリス（ロンドン）・韓国（ソウル）・アメリカ（ニューヨーク）でした。どの国もそれぞれ文化があり、生活があり、とても魅力的なものばかりでした。今回訪れた中国の方正県では、食事がとても美味しいという印象を持ちました。今まで訪れた海外での料理は、味付けの濃い物がばかりでした。それに比べて、方正県での食事は穀物類や野菜が多く、素材を生かし素材に味付けしたものばかりだったので、日本人の私でも無理なく食べることができました。また、方正県に住む人々は健康的な食生活を送っているのだろうな、という想像もしました。

日本語学校へ訪れた際、学校の中からどこからともなく日本語を発する声が聞こえてきました。私たちは校長室に案内され、中に入ると一つの掲示物が目につきました。そこにはたくさんの日本人の名前が掲載されており、そこには祖父の名前も載っていました。その掲示物は、中国人のための日本語学校を創立するにあたり、関係した人たちのリストでした。私はそのとき、こんなにもたくさんの日本人がこの学校の創立に関わっているのかという驚きを感じ、同時に関係した人たちの日本語学校に対する想いが伝わってくる気がしました。

教室に入ると、20名程の学生が日本語の勉強をしていました。学生たちの目はとても真剣で、学ぶ姿勢がとても素晴らしく思いました。祖父が教壇にたち、今の日本の現状について話しました。3月の東日本大震災について話している時、学生は津波の被害などを聞き、とても驚いていました。日本の復興を応援していると言う声も聞こえました。祖父のように、日本語学校を創立し方正県の方たちとコミュニケーションを取り、交流を深めることはとても大切なことだと思いました。こうすることで、様々な知識の取得や、情報を共有し今後の方正県にも少しずつですが、何らかの発展や影響を与えることになると思いました。小さな努力の積み重ねが、大きな成功への近道だと思います。日本と中国がこれからより一層、よい関係を築いていけると良いと思いました。

（まつき・ちあき：1991年4月生まれ。現在20歳。十文字学園女子大学に在学中。幼児教育学部に所属し、保育士を目指している）